

2024年/4月学習会の案内 第62回「資本論を読む会」

DAS KAPITAL

イギリスにおける 資本主義的蓄積



4月22日（月曜日）
午後6時30分Zoomで開催
次回は「第5節 資本主義的蓄積の一般的法則の例解 c-d」[岩波文庫(三)p261-]。

3月28日開催した「資本論を読む会」には12人の参加でした。お仕事に追われた中で参加された方はご苦労様でした。

今回は第5節の「a1846-1866年のイギリス」と「bイギリス工業労働者階級の低賃金層」の二つをやりました。レポートはSugiさん。標題の通り「例解＝実態」報告でしたので、理論的に難解な点は余りなかったと思います。

「a」ではイギリスにおける産業革命期(18世紀後半から19世紀前半)をくぐって、「人口は絶対的に増加したのに増加率は断続的に減少した」(p236)。「恍惚とさせる富と力との増加は、全く有

産階級のみに限られている」(p241)などの結果を生んだ。そして「b」では労働者の甚だしい「飢餓病」と一部屋に十数人も押し込まれて生活している「住宅地獄」実例の数々が報告されている。これが当時のイギリスにおける「資本主義的蓄積の実例・結果」ということでした。チョット難しい表現があったのは「富者はますます富裕になったが、貧者もまた貧の度を減じた。貧窮の極度が軽減されたとは、私は敢えて言わない」(戸籍長官グラッドストーンの言)に対してマルクスは「何という**逶降法**だろう!」と皮肉・批判する。辞書にもないような文学的な表現の意味は「盛り上がってきたところで、急につまらないこと(結論)が起きる場合。anti climax)」とありました。次回のレポーターはKatoちゃん。御願いますネ。

懇親会は参加メンバーも少し固定化してきたかな? とまかく楽しく議論を交わしました。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.cocacn.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから -Sugiさん

第5節 資本主義的蓄積の一般的法則の例解(例をあげて具体的に説明、解釈する)

a 1846-1866年のイギリス

○蓄積とともに資本の集積と集中が生じ、小規模(小借地)農業者は急激に減少し、大規模借地農場に合併され、巨額な相続財産も年々増加した。

○大物政治家グラッドストーン(後の英国首相)は言う、1843年2月13日下院にて、人民の消費力が減少し、労働階級の欠乏と貧困とが増加しているのに、それと同時に、上層階級における不断の富の蓄積と資本の不断の増大とが生じているということは、この国の社会状態の最も憂鬱な特徴の一つである。

b イギリス工業労働者階級の低賃金層

○イギリスにおける人口急増は、単に人間が増えただけではなく、結果的に人口構成を変えてしまった。古代・中世から近世のはじめまで約80%の人が農業を営んでいた。しかし、18世紀から19世紀にかけて農業人口が急激に減少する。

1760年約70%が…1850年22%へと低下している。

○枢密院から委嘱されたドクター・スミスは「最も健康で比較的良い境遇の家族」に栄養摂取調査をする。対象の都市労働者の6職種の職工の内、飢餓病を発症する絶対的最低限度をわずかに超過したのは1種だけ。2種で2栄養素含有食物不足。内1種は、はなはだしく不足していた。

○住宅の状態について、生産手段の集中が大量であればあるほど、それに応じて同じ空間における労働者(家族等)の稠密・密集もますます甚だしく、従って資本主義的蓄積が急速であるほど、労働者の住宅状態はますます悲惨になると述べている。